

[シラス]

1. 経年経過及び平成 26 年 7～8 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 25 年は 1,438 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 25 年は 1,426 トンとなりました。

今期は西薩海域では水揚げが全くありませんでした。

志布志湾海域の漁況は、カタクチシラス主体に 104 トンの水揚げで、前年の 64%, 平年の 73% でした。

2. 平成 26 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年を上回り、平年並、志布志湾海域は前年を下回り、平年並でしょう。

(根拠)

西薩海域・志布志湾海域ともに夏期降水量と秋漁との間に正の相関が見られます。また、西薩では、春漁と 10～12 月期の漁獲量に正の相関が見られます。今年の夏季は西薩、志布志湾ともに平年を上回る降水量でした。しかし、西薩では、春漁は低調で、また直近の漁況も低調であることから、前年は上回るが平年並の来遊であると予測しました。また志布志では降水量と直近の漁況から、好調であった前年を下回り、平年並の来遊であると予測しました。

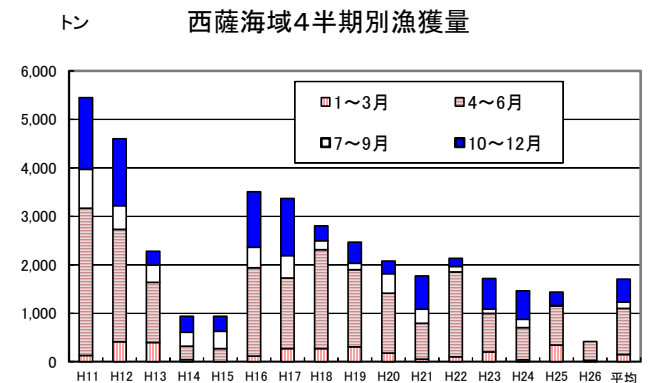
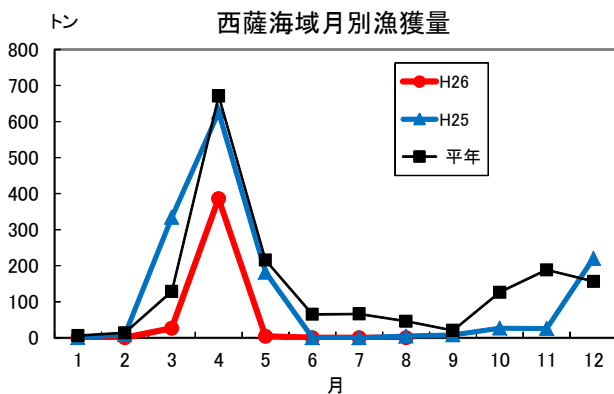
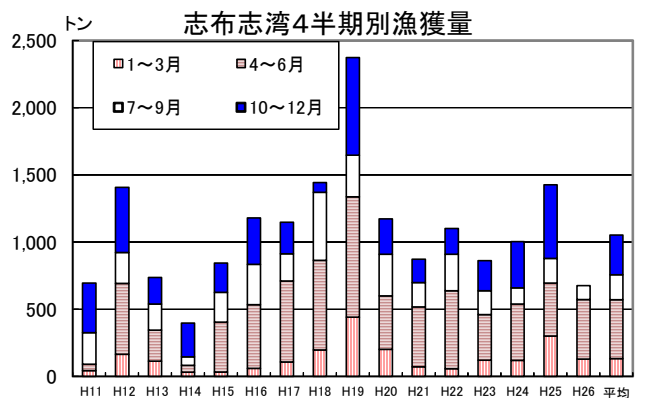
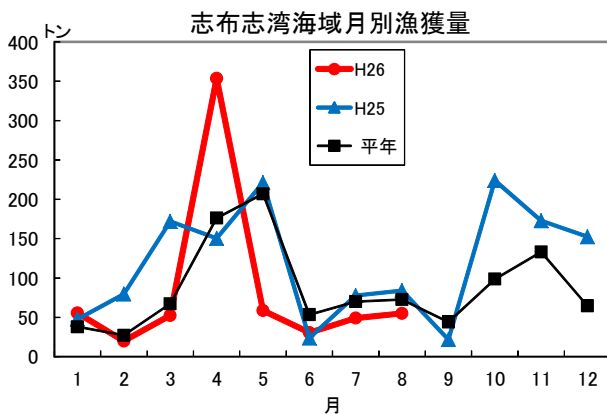


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4 漁協計)



志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2 漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 21～25 年)の平均値(AV)、平成 26 年 8 月 31 日までの水揚げ量を使用